

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890800226		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームたるみ中道		
所在地	神戸市垂水区中道6-1-8		
自己評価作成日	平成28年2月10日	評価結果市町村受理日	平成28年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	CS神戸調査センター		
所在地	神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	平成28年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人全体の理念である「自分の親に受けさせたい介護」「自分自身が受けたいと思える介護」「子供たちに継承してもらえる施設」という3つの理念を遵守し、スタッフが協力し合って取り組んでいる。

一人ひとりに応じた対応を、その人らしい生活が送れるよう支援するとともに、ご家族様とも連携をとって、ご本人、ご家族ともに安心して頂ける支援を心がけている。また、医療のニーズがある場合はご家族にお任せするだけでなく、ホームとしても可能な限り柔軟に対応し、早期に健康が回復するよう努めている。

ホームでの看取りを経験し、その過程で他職種間の連携をしっかりと築き、また職員が協力し合って最期まで看取ることができた。今後も希望があった場合、ホームで安心して最期まで過ごして頂けるよう、取り組んでいく。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅街にあり、近隣住民の利用者が多く、地域との結びつきは強い。毎日通ってくる家族もあり、玄関先に鉢植えの、かわいい季節の花々を提供してくれるボランティアもいる。玄関の正面に近隣住民から頂いた可愛いお雛さまを飾っている。利用者の高齢化に伴う重度化や限りある職員数の制約により、外出や外食の機会が少なくなっているが、そんな中で、改善委員会からの提案により1、2階の全利用者の入浴時間帯を全体的に調整して、外出の時間を作りだすなどの工夫をしている。また、1人の職員の呼びかけで車いすを連ねてカフェに行ったり、職員のモチベーションは高い。利用者は事業所を終の棲家とすることを希望している。事業所は、看取りを経験しているが、さらに利用者や家族のニーズをくみ取りながら、体制を整えるよう努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関：コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に密着した介護サービスの運営方針」において、「地域に根ざした介護サービスを提供し、笑顔で安心と活気のある生活が継続できるようサポートします。」という理念を挙げている。	事業所の理念を「地域に密着した介護サービスの運営方針」の中に謳っているが、さらに、現場の運営やケアサービスの拠り所となるような、常に立ち戻る原点を言語化したものとしての理念を職員の一人ひとりが知恵をだし合い作りつつある。	母体組織の理念を受けて、事業所独自の理念や標語等を職員全員で創り上げることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に、自治会長および隣にお住まいの方にご参加頂いている。ご入居者と散歩をした際には、庭のあるお家から咲いている花を頂くこともある。区のボランティアセンターを活用し、フラダンスや対象琴、腹話術などのボランティアに来て頂いている。	垂水区のボランティアセンターに申し込んでいる。オカリナ演奏、手品、腹話術等の披露の後は、カラオケを歌ったりしてその場をさらに盛り上げてくれる。そんな1時間余りが利用者の楽しみや笑顔を誘っている。入居者は近隣の出身の方が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長および近隣住民の方とお話し、認知症という症状のご理解を得よう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では情報をオープンにし、すべてお話をすることを心がけている。ご家族からは散歩など外出機会の確保の要望が多い。散歩やレクリエーションなどの活動時間を確保するために、入浴業務のあり方を変更する改善を行った。	多数の家族、地域住民代表、あんしんすこやかセンター、知見を有する者等が参加している。管理体制、イベント実施状況等の報告があり、参加者全員が意見・感想を述べる機会を作り活発である。家族会はないがこの会が家族同士の絆ともなっている。	多くの家族が運営推進会議に参加されています。この状態が継続されることを期待します。この場が、例えば権利擁護の勉強会や食事の献立や運営に関する意見等、双方向的な意見交換の場としてさらに活性化することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとの間でホームでの困りごとなどの相談をさせて頂いている。また、行政の主催する研修には参加し、情報の収集に努めている。	神戸市主催の集団指導や感染症の研修等には必ず参加している。「焦らずじっくりと事業所の運営管理に取組むように」と自治体からアドバイスをもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時の研修において、身体拘束に関する講義を全員が受けている。また、身体拘束に関する意識をたかめるよう職員同士で声をかけ合っている。	法人本部が主催して入職時には必ず研修を行っている。玄関口から直接に道路に出してしまうので、ユニットと玄関に通じる廊下との間の鍵は閉めている。このことを家族には断っている。これまでに身体拘束を行った事例はない。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を設置し、また随時行う職員面談においても虐待を見たり聞いたりしていないか聞き取りをしている。職員間において不適切ケアの考え方が浸透してきており、「これって不適切ケアにあたるのかな？」という会話が職員間でなされ、計画作成担当者に関くなどの行為も見られる。	利用者に対する言葉使いを含めて、不適切ケアが起らないように職員間で相互注意している。不定期ではあるが職員との面談をして、職員の疲労やストレスが利用者のケアに影響しないよう気を付けている。研修に虐待事例の映像動画を見て学んでいる。	

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関：コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見を受けておられるご入居者様の後見人およびご家族様と随時面談をしており、管理者は理解を深めるよう心がけている。職員は入職時の職員研修において権利擁護について学んでいる。	利用者の内1名が成年後見制度を利用している。後見人は弁護士である。今後も制度を必要とする利用者が増えてくるので、少なくとも幹部職員や運営推進会議の参加者には基礎的な知識を学ぶ機会を設けたい。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に十分ご本人とご家族と面談をし、ホームで出来ること、出来ないことについてあらゆる場面を想定した説明をしている。契約締結時には契約書類を全て読み上げて、かつ随時質問の機会を設けて、十分な説明をすることとしている。	契約時には関係の書類全てを、約2時間を掛けて丁寧に説明している。介護や医療の必要性が高くなっているため、事業所としてできることと出来ないことを明確に説明している。家族の理解と協力があってこそ良いケアができることをわかってもらう。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議においてはご家族からたくさんの発言を頂いている。また管理者だけでなく職員もご家族に積極的に話しかけることを心がけており、多チャンネルでご意見を伺っている。	多くの家族が運営推進会議に出席されるので、毎回、忌憚のない意見が出されている。外出が少ないという指摘に対しては、入浴の時間設定を詳細に検討し、職員の外出支援が可能となる時間帯を作りだしたこともある。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面談を実施し、個別に意見を聞く機会を設けている。また、入院中のご入居者の受け入れにおいて、職員に個別に意見を聞いて回るなどして、多くの意見を反映したホーム運営を心がけている。	法人本部と管理者とは月1回面談があり、現場職員の意見も間接的に伝えられている。事業所での安全衛生委員会、レクリエーション委員会、業務改善委員会等の活動は活発であり、課題解決型をめざし、随時、必要に応じて開催している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	従業員評価制度を設けており、意欲を持って業務にあたれるようにインセンティブを提供している。また、評価面談においては管理者と職員が直接対話し、個人の良い点や改善点を直接伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個人的な取り組みにはなるが、実務者研修を始めとした福祉系の資格取得について積極的に勤めており、通学に関してシフト上で配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所に研修に行くこと、および研修を受け入れている。同じ介護職として交流を図るとともに、各自気づきを得ている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関:コミュニティサポートセンター神戸

自己 者三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約締結前に行うご家族からのヒアリング、およびご本人との面談を通じてニーズを把握するよう努めている。			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約締結前に行うご家族からのヒアリングおよび面談を通じて関係づくりに努めている。			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時にご本人にとって最も適したサービスを紹介するよう努めている。			
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が主体となれる支援を心がけ、ご本人の能力に応じて、日常的な家事等を行っている。			
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事にご参加頂くよう働きかけている。また、ご入居者の求めに応じて電話連絡を行ったり、来訪をしていただくなどして、関係を築いている。			
20	(11)○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お体の状態が悪くなられたご入居者につき、外出が困難になる前に、職員付き添いのものと一時帰宅された。2時間ほどの滞在であったが、ご本人および奥様にとても喜んで頂けた。	近隣の馴染みの喫茶店に出かけたり、福田川辺を散歩する時間を多くしている。利用者の状態を観て、職員が付き添い自宅で数時間を過ごしてもらうことができた。住み慣れた地域と環境を思い、昔に帰るひと時となった。その後数ヶ月でこの方は亡くなられた。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がご入居者の個性や性格を把握し、ご入居者様同士の関係が築いていけるよう介入している。			

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関：コミュニティサポートセンター神戸

自己 者 第	三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームで看取りを行ったご家族に対し、体調を崩されていないかなどご様子を伺う連絡をした。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	予めご入居前にご本人およびご家族からご意見を伺い意向の把握に努めている。困難な場合は、特にご家族からのご意向を尊重している。	入居前に家族を交え2時間程かけて、本人の思いや家族の意向を聞き取り、全職員に回覧し共有する。入居後の日常的な気づきは、計画作成担当者に伝えたり、気づきノートに記入して回覧し、確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前の面談において、現在の生活状況や、これまでの生活歴を詳しく聞き取り、馴染みの関係、生活環境等の把握に努めている。またご入居後も生活歴を聞きだせるようご家族やご友人とコミュニケーションを図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の様子、体調の変化を観察、記録している。そして申し送りによって職員間で情報の共有をしている。また、医師、看護師とも情報の共有ができるような連携をしている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	予め関係者からの情報を収集し、ケアカンファレンスを開催し、課題とケアのあり方について、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居前の聞き取りからアセスメント要約表を作成し、サービス担当者会議を開いて介護計画を作成する。そしてモニタリングを行い、介護計画を定期的に見直しをしている。体調に変化のある時はその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートに日々の様子や気づきを記録し、出勤時に確認するようにしている。様子の変化や気づきは計画作成担当者に報告し、以後のケアの内容を検討するよう、情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の受診時に、ご家族のみでの対応が難しい場合の送迎や付き添いを行っている。必要物品の購入につき、要望があれば立替購入をしている。		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関：コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のコミュニティセンターで開催されている喫茶の行事にご参加された。また、近くの公園にお散歩に行く際、外出時は車椅子を使われる方が杖歩行で出かけられている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については、事業所の提携医療機関のほか、これまでのかかりつけ医を利用して頂くことも可能としている。実際に1名のご入居者がこれまでのかかりつけ医を受診されている。	現在1名が従前のかかりつけ医を利用し、残りは事業所の協力医療機関医師をかかりつけ医としている。月2度、協力医療機関医師の往診があり、訪問看護が週2度ある。軽微な体調変化や怪我の時はどちらかに連絡し指示を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師は週に2回事業所を訪問し、ご入居者の健康管理、健康チェックを行っている。週に2回来ることにより、医療的な相談事項もそのつど解決されている。また医療的処置も細やかに行われている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院内の地域連携室との情報交換や相談を通して、ご本人の状態の把握に努めている。また、退院前に病院関係者とカンファレンスを行うとともに、それに基づいたミーティングを施設職員間で実施し、スムーズな再入居を図っている。	去年は転倒骨折した利用者が入院した。入院中は度々面会し看護師から状態を聞いた。退院前に看護師、理学療法士、家族、本人とでカンファレンスを行い、退院後の注意点を確認しスムーズな再入居に繋げた。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係る指針」を定めている。入居時に本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者主にかかりつけ医とチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化した場合の対応方針を、書面で確認している。ターミナル期に入る時は医師からの説明を家族とともに聞き、再度確認をとる。開所以来2件目の看取りを去年末に行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時に市民救命士講習を受講している。また、利用者の急変や事故発生時の対応をまとめた対応マニュアルを整備している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時に備えるため、避難訓練を年に2回実施している。その内、1回は日中、もう1回は夜間を想定した訓練を行っている。	年2回消防訓練を行っている。車椅子利用者が多い為、窓際に利用者を避難させ消防署からの救助を待つ態勢をとる訓練を行った。非常用の備蓄食としては、前日に届く3食分の惣菜を利用する事にしている。	自治会長、近隣住民、家族にも声をかけ、訓練に参加してもらい、消防署への通報訓練、消火訓練、利用者の避難訓練を行う事を期待します。又、夜間の火災を想定した夜勤者の役割分担などを確認してはいいかがでしょうか。

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関：コミュニティサポートセンター神戸

自己 者三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の中から主に言葉遣いをモニターする「接遇大臣」を選び、ホームにより良い接遇が浸透するよう取り組んでいる。	職員の接遇が不十分であった時には、直ちに管理者が注意をしている。職員の中から「接遇大臣」を選び模範を示すように意識を持たせ、順次交代して全職員にいきわたるように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望やニーズを把握するために、積極的にコミュニケーションを図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事、入浴はご本人の意向を尊重し、可能な限りご本人のペースに合わせて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は季節感に合わせたものをご用意頂くようご家族に依頼している。化粧品などは馴染みの物をご利用されるよう支援している。ご自分で髭剃りが難しいかたは、介助にて行われている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けと一緒にやっている。食べ物にアレルギーがある場合は代替メニューをご用意している。月に3日、手作りの食事の日を設け、事前に食べたいものを伺って、お好きなものを提供する取り組みをしていた。	盛り付けや配膳、後片付けを利用者と共に行っている。月に3日は利用者の希望の多い料理や季節の行事の食事を手作りして楽しんでいる。	利用者と共に手作り料理を楽しむ日を継続していくことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居面談時の食事アセスメントで、食生活の習慣を把握している。また、食事量、水分量はそのつど記録し、少ない場合は十分な量の摂取を促すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕に口腔ケアを実施している。また、年に2回歯科検診を実施している。		

自己評価および第三者評価結果

まんでん堂グループホームたるみ中道

評価機関：コミュニティサポートセンター神戸

自己	第三者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居面談時の排泄アセスメントで、排泄生活の習慣を把握している。日頃の様子を観察した上でなるべくトイレで排泄できるよう援助している。	要介護4以上のおむつの使用者は5名いる。その他の利用者には車椅子使用者も含めトイレで排泄出来るよう支援している。バイタルチェック表を作成し、水分摂取量も管理している。排便困難者には下剤を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト、オリゴ糖を提供するなど食べ物の工夫をし、ホットパックでお腹を暖めたり、散歩するなど運動も勧めている。また3日以上排便がない場合は、下剤を使用してコントロールしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限りご本人の意向やペースに合わせた入浴をご提案している。	裸になっても寒さを感じないように脱衣所も温めている。浴槽に浸かれない利用者には職員2人でお湯かけを交互にして温まっていた。この方法は利用者に好評である。風呂嫌いの利用者には声かけを工夫し、今ではスムーズに入浴出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居面談時の睡眠アセスメントで、睡眠の習慣を把握し、習慣に応じた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個人別に分けた上で1冊にまとめ、薬の性質についてすぐに確認できるようにしている。また不明な点があれば提携薬局に気軽に相談できる関係にある。服薬の変更はそのつど申し送りノートに記載し、情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意なことを理解し、役割を担って頂いている。また個別の趣味を把握し、趣味に取り組んで頂けるような環境を作っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	大掛かりな業務改善を行って、午後に自由な時間を確保する取り組みをしている。その時間を使って、近隣の散歩に行く取り組みなどを強化している。	入浴方法を工夫して空き時間を作り、外出の機会を増やした。近所の公園やカフェに車いすを連ねて出かけて楽しんだ。そんな写真を大きく引き伸ばし黒板一面に張り出し、来訪した家族にも見せてもらっている。	

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームたるみ中道

評価機関：コミュニティサポートセンター神戸

自己 評価	第 三 者 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度の自由に使える金銭を所持して頂き、ご自身で支払いをして頂いている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りを希望される方はいないが、電話のやり取りについては要望に応じてかけたり取り次いだり支援している。また正月にはご入居者からご家族に宛てて年賀状を書かれる取り組みをした。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、ご入居の皆様で作成したちぎり絵を飾るなど、季節感の演出に努めている。。温室時計を設置して、快適な空間作りに努めている。玄関には花の鉢植えを置き、明るい雰囲気醸し出すようにしている	玄関正面にかわいいお雛様を飾り、リビングの掲示板には利用者手作りの鬼の面が貼られている。日中はほとんどの利用者がリビングのソファなどでくつろぎ、隣接している庭に出て洗濯物を干したり、花や野菜を植え水やりや収穫を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの一角にソファを設置し、リビングの中心から少し離れた所で自由にお過ごし頂けるようになっている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、寝具類や、家で飾っていたインテリアなど持ち込んで頂き、できるだけ自宅に近い環境、雰囲気を醸し出せるように配慮している。	備え付けの収納家具が1つあり、利用者は仏壇やテレビ等を持ち込み思い思いの部屋にしている。毎日掃除を行い部屋を清潔にしている。自分で掃除機をかける利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチン内は自由に出入りして頂けるようにしている。冷蔵庫や食器棚を開けたり、お茶ポットを使用することも自由に頂いている。		